

関東大震災について

大正12年（1923年）9月1日午前11時58分、神奈川県西部を震源とするマグニチュード7.9の関東大震災¹⁾が発生しました。震源域は神奈川県南部から相模湾、房総半島南部にかけての地域で、南関東一円が激しく揺れるとともに、沿岸部では高さ5mを超える津波に襲われた地域もありました。当時、近代化した首都圏を襲った唯一の巨大地震であり、被害は南関東から東海地域の広範に及びました。死者は105,385人、全潰・全焼・流出家屋293,387戸にのぼり、電気、水道、道路、鉄道等のライフラインにも甚大な被害が発生しました²⁾。

関東大震災の被害状況を綴った中井村震災記念誌では、中井村（現在の中井町）における字別の被害状況が記されています。中井川低地と境、境別所、遠藤原で特に大きな被害が発生しました。境別所の藤沢川谷頭部で大規模な地すべり性の崩壊が発生し、谷が埋められ、せき止め湖（震生湖）が形成されました。住民の手によって、災害状況の記録も残されています。

大正12年の関東大震災によって全潰した建築物（井ノ口尋常小学校の被害）



1) 地震の名称は関東地震ですが、地震に伴う災害は、被害状況が史上まれに見る大災害であったことから、関東大震災と呼称されています。

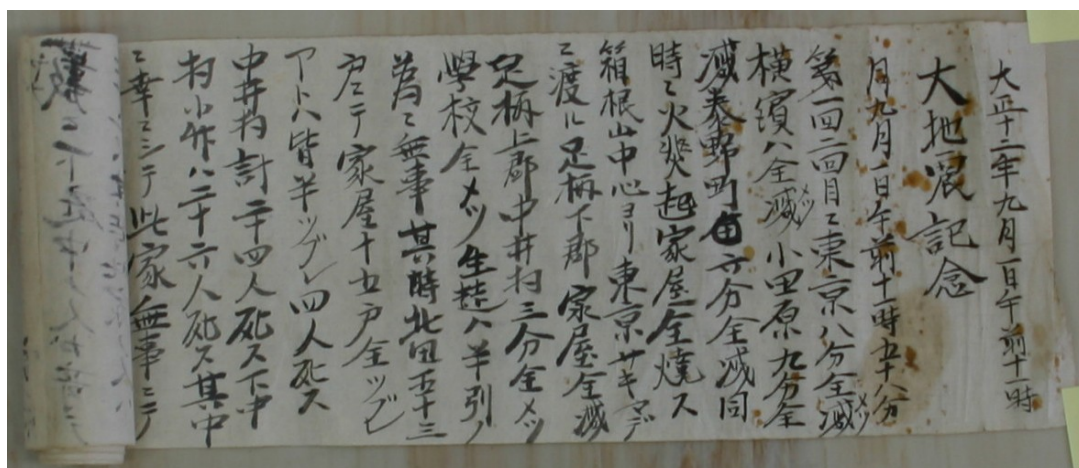
2) 中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会報告書（平成18年7月）」1923関東大震災より引用

中井町における被害の概要

字 名	人的被害		家屋被害		備 考
	死 者	行方不明	全 潰	半 潰	
比奈窪	0	0	15	11	地震のために崩落したり、埋没したり、亀裂が生じたりした箇所が多い。
松 本	7	0	13	30	全体の4割弱の犠牲者を出した。
雑 色	0	0	2	9	被害は軽かった。
鴨 沢	1	1	8	25	山林の被害は、一番多かった。
古怒田	0	1	1	20	
半分形	0	0	3	11	
田 中	2	6	10	19	畑や山林など土地の全面積に対する1割が被害を被った。
遠 藤	0	0	12	23	
北 田	4	2	15	17	土地の被害は少なかった。
久 所	0	1	4	10	被害は軽かった。
藤 沢	0	1	1	10	畑の被害が大きかった。
岩 倉	1	0	4	9	
境	5	1	53	29	被害が大きかった。
境別所	1	2	17	18	被害が大きかった。特に田畑の被害は甚大だった。
井ノ口	3	6	55	92	家屋の被害が大きかった。
合 計	24	21	213	333	

出典：中井村震災記念誌

住民が記した災害記録



莊司金太郎：大地震記念